

# 藤並の森

Vol.49



▲埼玉県にある大東文化大学 ピアトリクス・ポーター資料館には、世界的にも貴重なピアトリクス・ポーターの資料が多く所蔵されている。(Photo by Kayo Ishinoda)

日本において、版権の許可をえて『ピーター』ラビットのおはなし<sup>TM</sup>が正式に出版されたのは、一九七一年のことでした。石井桃子の翻訳で、福音館書店から出版されました。翻訳は作者ピアトリクス・ポーターの文体を意識し、文意の通りやすい、完璧な日本語に置きかえられ、挿絵もピアトリクスのものが忠実に再現されました。来年に先立ち、高知県立文学館で「日本語版出版四十周年記念 永遠のともだち、ピーター・ラビット<sup>®</sup>」展が開催されるのは、たいへん喜ばしいことであります。

英國で『ピーター・ラビットのおはなし』が出版されたのは、一九〇二年のこと。出版されるとすぐにベストセラーとなつたこの絵本は、一九一二年のオランダ語の翻訳版を皮切りに、一九二一年にフランス語、一九三二年にスペイン語、一九三三年にはウェールズ語、その後も世界各国の言葉に翻訳され続けています。

さて、福音館からの翻訳は一九七一年ですが、日本ではそれ以前にもさまざまなかたちで紹介されてきました。「ピーター兎」(子供之友 第五巻七、八号収録 婦人之友社 一九一八)、「紙芝居 ピーター兎」(全甲社 一九三八)、「十六ミリフィルム映画 ピーターラビットの冒険」(電通映画社 一九五九)などがあります。

日本において、版権の許可をえて『ピーター』ラビットのおはなし<sup>TM</sup>が正式に出版されたのは、一九七一年のことでした。石井桃子の翻訳で、福音館書店から出版されました。翻訳は作者ピアトリクス・ポーターの文体を意識し、文意の通りやすい、完璧な日本語に置きかえられ、挿絵もピアトリクスのものが忠実に再現されました。来年に先立ち、高知県立文学館で「日本語版出版四十周年記念 永遠のともだち、ピーター・ラビット<sup>®</sup>」展が開催されるのは、たいへん喜ばしいことであります。

英國で『ピーター・ラビットのおはなし』が出版されたのは、一九〇二年のこと。出版されるとすぐにベストセラーとなつたこの絵本は、一九一二年のオランダ語の翻訳版を皮切りに、一九二一年にフランス語、一九三二年にスペイン語、一九三三年にはウェールズ語、その後も世界各国の言葉に翻訳され続けています。

さて、福音館からの翻訳は一九七一年ですが、日本ではそれ以前にもさまざまなかたちで紹介されてきました。「ピーター兎」(子供之友 第五巻七、八号収録 婦人之友社 一九一八)、「紙芝居 ピーター兎」(全甲社 一九三八)、「十六ミリフィルム映画 ピーターラビットの冒険」(電通映画社 一九五九)などがあります。

この「日本農業雑誌」は、一九〇五年から一九二二年まで続いた雑誌で、数ページにわたる「田園風景」というコーナーがあり、そこではバイロン、ツルグーネフ、田山花袋といった文学者の作品が取り上げられることもありました。

「悪戯な小兎」には「松川一郎」という名前が記載されているだけで、ピアトリクスの名前はありません。テキストは意訳の部分もありますが、ほぼオリジナルのものを訳していると言えることができます。挿絵の四枚は誰がトレースしたのかは不明です。当然、著作権侵害でしょうが、当時の状況を考えると、松川一郎に剽窃という意識はなかつたように思えます。彼はどういう経緯でピアトリクスの絵本を入手したのでしょうか? もつか調査中のテーマであります。

(大東文化大学文学部・英米文学科教授)

## リレー随筆

### 『ピーター・ラビットのおはなし』と――「悪戯な小兎」

河野芳英  
かわの よしひで

# 会紹介 日本語版出版40周年記念 永遠のともだち、ピーターラビット®展



平成22年  
7月9日(金)  
▼  
9月12日(日)  
常設展示室  
特設コーナー  
観覧料500円

## ●第2部 おはなしのはじまり ／作者紹介コーナー／

ピアトリクスは一八六六(慶応二)年七月二八日、ロンドンの裕福な家庭に生まれました。幼い時から動物や豊かな自然を愛し、慈しんでいたピアトリクスは、絵本作家として成功したあと、イギリス湖水地方のニア・ソーリー村にあるヒルトップという小さな農場を手に入れます。そして、絵本分野だけではなく、ライセンスビジネス、農場経営、羊の改良、慈善事業など幅広い分野で活躍することとなります。

高知県立文学館では、毎年夏休み期間に、子どもから大人まで幅広く楽しんでいただける展覧会を開催しています。今年は、『ピーターラビットのおはなし』日本語版出版40周年を来年に控え、ピーターラビット絵本の魅力をご紹介します。

「ノエル君、なにを書いたらいいかわからないので、4匹の小さなうさぎの話をしましょう。名前はフロップシー、モップシー、カトンテール、そして、ピーターです。」

## ●第1部 ここには、ピーターラビット／作品紹介コーナー／

二七歳のときピアトリクス・ポター<sup>TM</sup>(一八六六一九四三)は、一八九三(明治二六)年九月四日の日付で、かつての家庭教師の息子であり、病気で療養中の五歳のノエル君に宛てて絵手紙を送りました。そこには、いたずら好きなうさぎのお話が描かれており、やがてその話は『ピーターラビットのおはなし』という絵本になりました。単に可愛いだけではなく深い魅力があるこの作品は、瞬く間に多くの人々の心をとらえ、合計で二四冊のシリーズとなり、百年以上たつた現在でも世界中の人々に愛されています。

本展覧会では、展示構成を大きく四つに分け、ピーターラビットと作者であるピアトリクス・ポターの魅力に迫ります。



▲ ピアトリクス・ポター

## ●第3部 おはなしのつづき ／ピアトリクス・ポターの意志を継ぐ人々／

日本には、世界的にも貴重なピアトリクスの原画や書簡を直に見ることができる素晴らしい施設があります。

## 会 覧 展

Exhibition

会  
紹  
介

## 日本語版出版40周年記念



© F.W &amp; Co., 10

平成22年  
7月9日(金)▼  
9月12日(日)  
常設展示室  
特設コーナー  
観覧料500円

## ☆展示解説

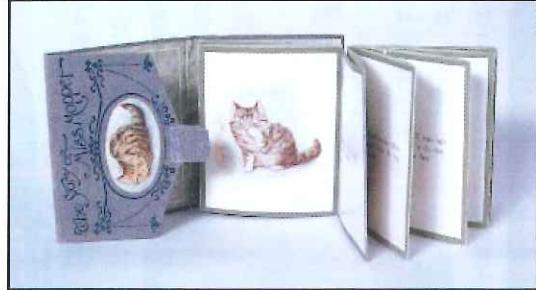
展覧会担当者による  
展示解説を行います。

## 毎週土曜日と、

7月9日(金)、11日(日)、  
19日(月・祝)、25日(日)、  
8月15日(日)、  
9月12日(日)

各日とも午後1時半～

(約20分)

参加には**当日観覧券**  
が必要です。

▲『モペットちゃんのおはなし』パノラマ版 初版  
1906年 フレデリック・ウォーン社  
折りたたみ式の本作品は、デリケートな装丁のため、  
現存している数が少ない。(大東文化大学所蔵)

本展覧会では、大東文化大学と河野先生のご協力のもと、ビアトリクス・ポター資料館所蔵の資料の一部を展示します。高知ではなかなか目にすることのできない貴重な資料をお楽しみください。

また、ビアトリクスの志を継いで活動する人々を多角的にご紹介いたします。

してきたい貴重な資料が一般公開されています。  
「大東文化大学ビアトリクス・ポター資料館」では、英米文学科の河野芳英教授を中心に、大東文化大学がこれまで収集

日本を代表する児童文学学者である石井桃子(一九〇七—二〇〇八)さんは、戦前から海外の児童文学作品を原作に忠実な翻訳で紹介し続け、普及に努めました。

また、「子どもたちに良い本をたくさん読んでほしい」と、自宅の一部を改装して家庭文庫「かつら文庫」を開き、子どもたちが本の世界と出会える場所を作ることに力を注ぎました。

石井桃子さんの輝かしい文学活動の足跡をご紹介します。

ビアトリクス・ポターは、女性の職業が極端に制限されていた19世紀において、人生をひとまかせにせず、たゆまぬ努力と強い意志で行動し、絵本を通じて「人間と自然と動物との共存」のメッセージを広げていった素晴らしい女性でした。

そんな彼女の思いに触れることが出来る展覧会です。この夏は、ピーターラビットとの素敵な出会いをお楽しみください。

(学芸課／福富陽子)

埼玉県のこども動物自然公園の中にあ

●第4部 日本語でも、いきいきと  
～石井桃子さんとピーターラビット～

## ◆関連企画のご案内◆

## ■オープニングセレモニー開催！ピーターラビットもやってくるよ!!

本展を記念して、オープニングセレモニーを行います。楽しいセレモニーの様子を見に来てね！

日 時：平成22年7月9日(金)午前9時～(30分程度)

場 所：文学館1階入り口

特 典：観覧券をお買い求めの方・前売券をお持ちの方を対象に、先着100名様に  
ポストカードをプレゼントいたします！

## ■記念講演会 “おっとりと「ピーターラビット」の世界へ”

大東文化大学文学部・英米文学科 河野芳英教授による講演会です。



日 時：平成22年7月18日(日)午後2時～

場 所：高知県立文学館1Fホール 定 員：100名(要電話申込)

参加料：**要当日観覧券**

## ■ハッピーバースデー・ディア・ポター！ 井上あずみさんコンサート!!

7月28日(水)はビアトリクス・ポターのバースデー!! この日を記念して、ピーターラビット読み聞かせ大使で、キッズファミリーに大人気のシンガー・井上あずみさんのコンサートを開催いたします！

日 時：平成22年7月28日(水)(開場)午後1時 (開演)午後2時～午後3時

場 所：RKCホール 定 員：675名

参加料：**参加には7月9日から販売する、専用のコンサートチケットが必要です。**  
(大人・子どもとも各1枚500円・おみやげ付き) ※3歳以下の幼児は膝上可

※遠方の方は、お近くの郵便局で必要枚数分の金額の定額小為替(小為替には何も記入しないでください)を購入し、郵便番号・住所・氏名・電話番号・希望枚数を明記のうえ文学館までお送りください。

※チケット販売は先着順となります。※お電話でのお取り置きはお受けできませんのでご了承ください。

その他、朗読の会、工作イベントなどを催します。詳細は文学館までお問い合わせください。

高知県立文学館企画展

# 大河ドラマの軌跡と文学

**4月4日(日)から、  
6月27日(日)まで開催！**



## ● 観覧者の皆様からの声

「大河ドラマの軌跡と文学」展をご覧になつた方から色々な感想をいただいています。

例えば、「文学館のオリジナルの企画展とは思っていなかった」「今年の『龍馬伝』に関するものが中心だと思い、歴代の全四九作品に触れているとは思つてなかつた」「約半世紀近い歴代の全作品をこのように一堂に展示しているのを観る機会はなかつたので素晴らしい」「大河五十回の時とか五十周年



の節目を高知で先取りした意味のある展覧会である。等々といった様々な声をいただいています。

そんな中で、「単に大河ドラマの変遷だけではなく、その時代背景などにも配慮されており、そこに自分自身の歴史・わが家の歴史を重ねて想い出し懐かしかつた。」との声は、まさに「ちらの企画の意図を汲んでいただいたうれしいメッセージです。

## ● 見どころポイント

今回の企画展は大河ドラマの軌跡を文學・歴史・旅といった視点などから多様に楽しんでいただければと思います。

文学の視点からは、大河ドラマの原作者である国民的に著名な作家で複数回取り上げられた中から特に七名を選び、関係記念館等からの協力を得て、貴重なゆかりの品などを展示しています。

例えば、鎌倉文士の大佛次郎の生涯を本県出身で鎌倉で過ごした漫画家・横山隆一が描いた「大佛次郎作品道中図絵」であるとか、吉川英治の大河四作品の直筆原稿や「武蔵誕生地の図」直筆画、山岡荘八愛用の座机、宮尾登美子の『宮尾本 平家物語』の四千枚の原稿、海音寺潮五郎の直木賞記念時計等々貴重なゆかりの品々があります。

歴史と旅の視点からみると、大河ドラマの取り上げられた時代は平安時代から近現代まで多岐に渡り、また、その舞台となつた地も東北から沖縄までと全国に及んでいます。このような作品の解説をゆかりの地の写真とともにパネルで紹介、原作本などと一緒に展示しています。

また、大河ドラマの軌跡をナレーション付きのスライドでお見せするオリジナルDVDなども楽しんでいただければと思います。

(学芸課長／元吉喜志男)



## 学芸員メモ



今年の四月から、学芸員として勤務するようになりました。私は千葉県の出身ですが、大学時代に四万十川流域を旅行して以来、高知は憧れの地となっていました。学芸員という仕事も、ずっと目標だったので、毎日が本当に充実しています。

こちらに来るまでは、大学院で、正岡子規を中心に、明治の文学と自然についての研究をしていました。ちなみに大学時代は農業経済学専攻です。今後、文学館で寺田寅彦などの担当となりますので、複数の学問分野で学んできた経験が生かせるのではないかと考えています。

高知という場から情報を発信していくことは、非常にやりがいがある仕事だと感じています。現在、インターネットの普及によって、地方にいながら情報を得ることが容易になりました。それに加え、こうしたメディアではなかなか拾い上げることのできない情報に直に接することができる、中央ではない強みもあります。

かつて、五山文学や自由民権運動等、日本の文学において看過できない動きがこの地から起りました。今後もこの高知から文学のムーブメントを起こしていくけるよう、力を惜しまず活動していきたいと思います。実際のところ、高知の人々の気持ちの「熱さ」に接し、私自身、非常に刺激を受け、前向きに毎日を過ごしています。この気持ちを、よりよい文学館づくりへと高知に還元していけたらと思つます。

みなさん、ぜひ文学館においてください。文学の楽しさを味わえる企画を用意して、お待ちしています。

(学芸課／永橋禎子)



## ●寺田寅彦記念室展示替えのお知らせ●

このたび、寺田寅彦記念室の展示替えを行います。文学館には、まだまだご紹介切れていらない資料が眠っています。今回の展示替えでは、こうした資料たちに光をあて、寅彦の新しい魅力を引き出していくことを考えていました。

資料を説明するキャプションも、文字を大きくし、ルビを振るなど、幅広い年齢層に見ていただけるように工夫します。また、資料の説明もより詳しく、わかりやすく行い、寺田作品の幅広さ、奥深さを十分に味わっていただけれるようになります。

七月九日(金)よりお披露目予定です。ぜひ新しい寺田寅彦記念室にお越し下さい!!

(学芸課／永橋禎子)

## トピックス

### ●文学館と観覧者数●

平成二二年度の高知県立文学館の観覧者数は、二年連続で一万人を超えた。月別に見ると平成二十一年度に大変人気の高い企画展のあった十一・十二月以外のすべての月で対前年度の観覧者数を上回るとともに、一ヶ月のお客様が一千人を割る月がありませんでした。

所在地の人口規模などからすると、地方に立地している公立の文学館としてはかなり健闘しているのではないかと思われます。館員が力を合わせてこれからも志を高く持ちより高い目標を掲げて、より多くの方に愛される館づくりに努めていかなければなりません。

(学芸課)

## 「文学作品という生命を…」元吉 喜志男

作家・五木寛之さんの『わが人生の歌語り』(ラジオ深夜便)のシリーズは、「」の三月でフィナーレとなりましたが、五年間も続いた人気番組でした。「流れ行く川のように、時代は移り、人も変わった。その後に一つの歌が残り、過ぎゆく季節の記憶を奏でる。」

という須磨佳津江さんのナレーションで始まり、昭和という時代の表情の変化をしつとりと語りかけ、懐かしい時間へ誘つてくれました。

この番組の中で、五木さんが「一つの作品が生まれるまでには、出版社の企画や作家の書きたいという希望だけでは、なかなかうまくいかず、書き手と読者や時代の要求と場を提供するジャンナリズム、この三つがうまく重なったときに、その作品が誕生する。」

といった内容のことを、「二十年以上もの間考え続けてやつと実現した」自身の作品『親鸞』の例などを挙げて話されていました。

一つの文学作品に生命が吹き込まれ世の中の人々の目に止まるまでには、作家はもとより多くの関係者との様々な関わりの道程があるのだろうと思われます。生まれて間もない生命、幾星霜を経ても『曼珠』として現代に生き続けている生命、それらの発する素晴らしい輝きを、より多くの人に感じていただける内容の充実した文学館づくりを…。

この一年間を通じて、様々な分野の方々との関わりの中で、文学館という組織が如何に多くの方々に支えられながら運営出来ているかということを、改めて再認識させられました。そうした方々への感謝の気持ちと、より裾野の広い人々に愛され親しまれる館づくりを胸に、新たな年度が始まっています。

## 館長室から

荒倉峠の怪　—浜本浩の「犬」—

荒倉トンネルが六年の年月をかけて貫通したのは一九五三年三月だつた。戦後からも抜いた頃だつた。今ではかつての弘岡、春野町も高知市に編入され、吾南平野もわが庭になつた。

吾南平野一帯は土佐のデンマークともはやさ  
れるほど、いい野菜がとれていた。それもトン  
ネルができるまでは苦労の多い出荷だった。

この荒倉峠を舞台に浜本浩は大正時代、怪小説「犬」を書いた。明治二〇年、六月になると土佐佐久は行司によつて殺された。西郷雲は行司

月に暮れになると、高倉町をさうれば、ならだかかつた。この峠を高知市内へ青物を出荷する農民は、行商の手をもつて、さういふもの

民は荷車をひきあるいはトラック替りのオート三輪でこえた。また高知市内への通学生も歩いて、また自転車を漕いで登り降りした難儀な峠だった。

かつては宇佐どれのカツオもこの荒倉崎を荷車につんで運ばれた。宇佐のカツオのうまさはこの運搬時間が高知に着くころ、頃合になるところから評判がたつていた。



◆現在の荒倉トンネル(春野側)

と前を曳く男が言う。網元が暗闇をみると無数の青白い目玉が光っている。男はギャツと車の棍棒を放る。何百本ものカツオが散り狼が殺到する。車を集めて円陣を組み防衛するなか、一匹が網元の廻りをかけめぐる。

「さつきから何か従いてくるような気がするのう」

と後押しの少年が言う。

かつての藩の御獵場の深山があり、狼が旅人を喰い殺したこともある。暗闇で

にはカツオの大群がおしかけてくる。納元は荷車を集め、六台にカツオを積みこみ、夜明けの市へ

この荒倉峠を舞台に浜本浩は大正時代、怪小説

猪野睦

「金の船」「金の星」

—最近の寄贈資料から—



「金の船」 大正八・十一～十五 キンノツノ社  
「金の星」 大正十一・六～大正十一・十二 金の船社  
大正十二～昭和四・七 金の星社

「金の船」「金の星」は、「赤い鳥」「童話」と並び大正期児童文学の隆盛に寄与した児童雑誌です。「金の船」は、斎藤佐次郎編集、島崎藤村・有島生馬監修で、のちに「金の星」と誌名を改めます。

「金の船」創刊の少し前には、近代児童文学を確立した、鈴木三重吉主宰の「赤い鳥」が発刊されています。三重吉は、巖谷小波に代表されるお伽噺からの脱却を目指し、子どもの純粹さを保全開発するため、作文の養成を唱えました。

た児童文学の新運動によつて詩的・藝術的な面

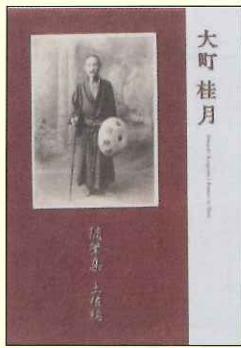
が向上している反面、道徳的、教訓的な面が不十分となつてゐる。批判します。二つ、「金の船」

一分の力も惜しまずお手伝いした。そして、金の船は、体裁や内容など、子供っぽいものになるよう

受贈報告(平成二年三月～四月) 敬称略  
有川 浩・第一回「高校生が選ぶ天童文学賞」賞状  
二点 ▶関直彦・「金の船」(合本)「金の星」(合本)各  
新潮社刊他 ▶奥村昭二「句集丹頂」奥村昭二著  
点他 四三点 ▶横田晴光・「漱石とその時代」江藤淳  
▼大野充彦・「城下の風景—龍馬の生きた土佐—」  
野充彦著刊 ▶小椋慶子・「龍馬が長い手紙を書く時」  
椋克己著 戎光祥出版刊 ▶高知福祉専門学校・「お  
なしのくに 高知福祉専門学校創作童話集 No.20」  
知福社専門学校刊 ▶細川光洋・「レコード盤「みそさ  
い／ソルヴェーグの歌」ビクター・家庭庭音楽・名盤集  
▼武政礼子・「合同句集 霧の里」馬酔木四十句会  
尾芭蕉詩と風雅 每日新聞社刊 他 ▶太郎良信・  
賞文選 総方生活の研究—小砂丘忠義研究の一環  
して—」立教大学教育学部教授 太郎良 信著刊  
猪野幾久子・「ひまわり第六集」ひまわりの会 猪野  
▼山脇映子・「おばあちゃんの千一夜物語」山脇映子  
こうち童話の会刊 ▶妻鳥季男・「毎日グラフ」別冊  
尾芭蕉詩と風雅 每日新聞社刊 他 ▶太郎良 信著刊  
猪野幾久子・「ひまわり第六集」ひまわりの会 猪野  
久子刊

このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

## ●「大町桂月 隨筆集 土佐編」 出版のご案内



酒と旅と自然をこよなく愛し、数多くの美文・韻文・評論・隨筆・史伝などを残した高知出身の文人大町桂月。「文章は人格なり、己を欺くなれ」と桂月の言葉です。

高知県立文学館では、「100九(平成二)年四月、桂月の生誕百四十年を記念して「大町桂月と酒と旅と自然を愛した文人展」を開催し、桂月の人と文学を顕彰しました。

展覧会終了後、桂月の息女(故)染谷愛さん(ご長男芳胤さん)から「文学館で役立てて欲しい」と金一封を寄付いただきました。館としては、桂月資料の購入も考えましたが、桂月が土佐(高知)について書いた隨筆を中心にして編集し出版することと致しました。

作品は、「桂月隨筆 近年の我輩」(藝文社、一九一六)『絆評 桂月文粹』(巖々堂、一九二二)『新選大町桂月集』(改造社、一九三〇)から抜粋、「冷汗記」「三十八年ぶりの故郷」「絶筆 馬鹿珍傳」など十六作品を収録しました。収録作品については、大町桂月の研究者でもある高橋正氏にご協力いただきました。是非とも一読ください。

(ミニジャムシヨウヒにて千五十円(税込み)で販売中。通信販売あり)

- ①高知出身の作家で「大河」や「篤姫」「義経」の原作者としても活躍を続ける宮尾登美子さんの「天璋院篤姫と宮尾文学」展図録の改訂版を出版しました。
- 改訂版発行に際し「史実と粉飾のはさま」というエッセイを宮尾さんに寄稿いただきました。丁度大河ドラマ「龍馬伝」でも「歴史」「文学」「大河」「ラマ」などにおける史実と創作について物議がなされてくる最中であり、作家である宮尾さんの文章は、説得力のあるものとなっています。また、年譜も加筆しました。是非ご一読ください。
- (ミニジャムシヨウヒにて五百円(税込み)で販売中。通信販売あり)
- ②宮尾さんは、平成十八年、高知県に資料を一括寄贈くださっていますが、この度、原稿類、写真類、創作参考資料等、膨大な資料を追加寄贈くださることとなり、日々、文学館で整理を行っています。隨時公開いたしますので、今しばらくお待ちください。
- ③「宮尾文学の世界」の「オーナー」では、昨年の文化功労者選定を祝い、宮尾さん自身が「宮尾登美子代表作品」として挙げる十作品を順次ご紹介しています。
- 前期は、六月一七日まで、自伝四部作「懽」「春燈」「朱夏」「淀川」、直木賞受賞作「絃の琴」、「序の舞」「陽暉樓」、「藏」を紹介。
- 後期は、七月九日から、「鬼龍院花子の生涯」、「天涯の花」、「東福門院和子の涙」「クリオバトウ」、「宮尾本 平家物語」を予定しています。

(学芸課／津田加須子)

## ●宮尾登美子「フランは、 お見逃しなく。」

## ●北見志保子の図録、 文学探索徒步図などが新しくなつました！



「平城山」の歌人  
北見志保子

また、当館の周辺にたぐわんある文学碑や文学者の生誕地跡など、文学に関わりのあるゆかりの地をまとめた「文学探索徒步図」も新しくなりました。一〇〇六(平成十八)年に新しく建立された坂崎紫瀬郎跡碑などを追加した改訂版です。新しくなった徒步図を手に、散策に出かけてみてはいかがでしょうか。

常設展入り口に設置してある高知県内の文学ゆかりの地をまとめた「高知県文学マップ」につづいて、「高知県文学マップ」につづいて、「自由にお持ち帰りいただける資料ができます。これからも「持つて帰る」というお声にお応えして作りましたので、ぜひ、ご利用ください。(共に館内にて無料配布中)

その間にも「北見志保子の図録がほし」とのお問い合わせが多くあります、「この度、増補改訂版を刊行する」となりました。

北見志保子の生涯についての解説とともに代表作に親しんでいただける内容です。ぜひお買い求めください。

(ミニジャムシヨウヒにて四百円(税込み)で販売中。通信販売あり)



**平成22年 2月1日(月)～平成23年 1月10日(月)まで、  
高知県立文学館と土佐山内家宝物資料館による連携展示となります。**

※また、展示入替のため、6月28日(月)～7月8日(木)は**臨時休館**とさせていただきます。

## 企画展 案内

### 「大河ドラマの軌跡と文学」展

4月4日(日)～6月27日(日) (※会期中休館日なし・入館は午後4時半まで)

会場：高知県立文学館2F 常設展示室特設コーナー

観覧料：500円 (常設展含)

開館時間：午前9時～午後5時



### 日本語版出版40周年記念 永遠のともだち、ピーターラビット®展

絵本を通じて「人間と自然と動物との共存」のメッセージを広げていった作者ピアトリクス・ポター™の業績とピーターラビットの魅力ある世界を多彩な資料でご紹介します。

7月9日(金)～9月12日(日) (※会期中休館日なし・入館は午後4時半まで)

会場：高知県立文学館2F 常設展示室特設コーナー

観覧料：500円 (常設展含)

開館時間：午前9時～午後5時



© F.W & Co.,10

ピーターラビット展の紹介をしています！ 詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

【新採】	学芸員
【退職】	
永橋	森
頼子	香奈子

## 人事異動

### 応募 問い合わせ先

〒780-8123

高知市高須三五三一  
(財) 高知県文化財団内  
高知県芸術祭文芸賞係 あて

TEL 088-866-8013

### 選賞

各部門ごとに優秀作品に賞状と副賞

【締切日】 平成22年9月30日 (当日消印有効)

\*作品は未発表のもの。応募者は高知県在住者。氏名、住所、電話番号、年齢、性別を明記。短歌、俳句、川柳は官製ハガキで応募。作品は返却しません。

平成22年度高知県芸術祭では、「第39回文芸賞」の作品を募集します。

### 【公募作品部門】

・短編小説 一人一編400字詰原稿用紙で10枚以内  
一人一編400字詰原稿用紙で2枚以内

・詩 一人3首以内

・短歌 一人5句以内

・俳句 一人5句以内

・川柳 一人5句以内

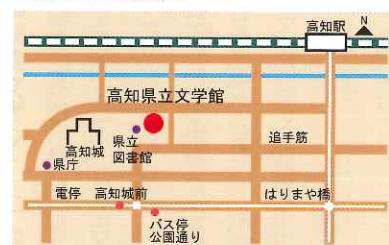
## 高知県芸術祭 文芸賞作品募集！

### 利用案内

開館時間	午前9時～午後5時 (入館は、午後4時半まで)
休館日	年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
観覧料	一般350円
特別企画展のあるときは、料金が変わります。	
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。	
なし。ただし近辺に有料駐車場があります。	
ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」	
貸出施設	企画展示室、ホール、茶室

E-mail : bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp  
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/

### 交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス(朝倉(高知大学前)行)  
「公園通り」下車 北へ徒歩5分
- JR高知駅下車徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分



〒780-0850  
高知市丸ノ内1丁目1-20  
電話 088-822-0231  
FAX 088-871-7857